



## 「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」の理工学部見学会を開催

### 【概要】

令和元年 11 月 13 日（水）に、2019 年度「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」理工学部見学会が開催され、招待講演、ポスター発表会、さらに、総合分析実験センターのガイダンスと装置実演を行いました。県内企業関係者と学内関係者 85 名の参加があり、盛会となりました。

### 【本文】

佐賀県工業連合会と理工学部が共同で運営する「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」の事業として、令和元年 11 月 13 日（水）13:30～17:00 に「2019 年度佐賀大学理工学部見学会」を本学理工学部 6 号館 2 階多目的セミナー室において開催しました。

副学部長(研究担当) 佐藤 和也 教授の司会で、豊田 一彦 学部長から開会の挨拶として本事業の歴史、ならびに今年度行われた理工学部の改組についての紹介がなされました。

その後、今年度からの新たな取り組みとして、工学系研究科を修了した留学生で、県内企業に勤務の研究者を招聘した招待講演を実施することとし、今年度は株式会社 西村鐵工所に勤務される MUTAIR Sami 博士に「My experience in Japan as trainee, postgraduate student, researcher and participant in civil society（研修生、大学院生、研究者および社会人としての日本での経験）」について講演していただきました。MUTAIR 氏の出身地であるパレスチナのガザ地区の紹介、来日の経緯、本学入学と海洋エネルギー研究センター 池上 康之 教授の研究指導、就職の経緯と、西村鐵工所の紹介、および現在の研究、参加留学生や企業の方へのメッセージとして日本で生活する利点と不便さ、などについて熱く講演していただきました。イスラム教徒である Sami 氏がお祈りの時間や食べ物について会社に理解のある方の存在が大きいという意見は我々大学人にとっても有意義でした。

講演終了後、理工学部内の有志教員と学生、ならびに肥前セラミック研究センターと総合分析実験センターの関連教職員により、情報・化学・機械工学・電気電子工学・都市工学の各部門と各センターによる 27 件のポスター発表が 1 時間にわたって行われ、活発な議論がなされました。

休憩の後、総合分析実験センター教員から、研究設備学外者利用について説明がなされました。さらに場所を理工学部 9 号館 1 階総合分析実験センターに移し、参加企業の業務に関連する新規機器類のガイダンスと実演が行われました。

17:30 より、かささぎホール 2 階にて懇親会も行われました。佐賀県工業連合会 吉村 正 会長（株式会社 大神）によるご挨拶と乾杯の音頭がなされた後、懇談がなされ閉会しました。

11 月に本学や県内企業でも多くの行事が行われたこともあり、今年度の事業の参加者は 85 名(本学教職員 21 名、学生 52 名、県工連 12 名)となりましたが、多くの交流がなされまし

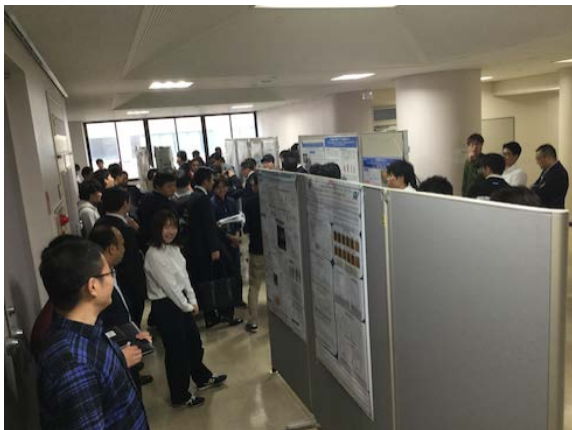
た。本学は中長期ビジョンとして「地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して」をキャッチフレーズとして掲げており、これらの事業を通して理工学部が県内企業の発展の一助を担えれば幸いです。



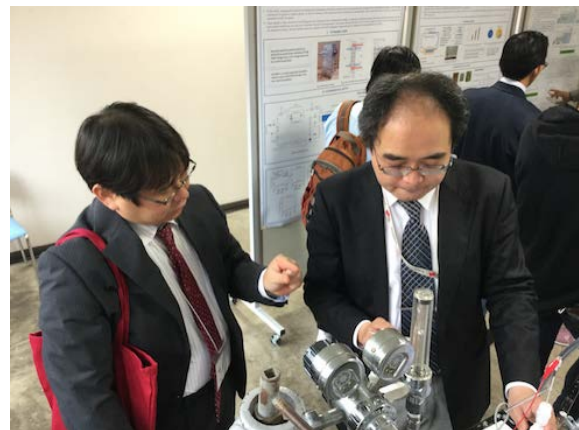
開会の挨拶を述べる豊田学部長



招待講演で講演する MUTAIR Sami 博士



ポスター発表会の様子



総合分析実験センター 永野 准教授による説明



新地 技術職員による機器の実演



懇親会挨拶終了後に鯛の塩竈の塩割を楽しむ吉村会長